



くみはまだより



令和2年3月25日 発行：久美浜市民局 <3月号>

新たなまちづくり拠点が完成！ 移住・定住者促進施設『おかしか』



『おかしか』で久美浜一区自治振興会の皆さんと語る安井さん（中央）



民家の趣（おもむき）を生かした外観（写真左）と落ち着いた建物内部の様子（写真右）



『おかしか』2階 移住体験者宿泊スペース

久美浜町では昨年、町域すべてが移住特区の指定を受け、地域活性化を目的に移住・定住促進に取り組んでいます。

今回、府及び市の支援を受けて、久美浜一区内に新たに民家を活用した交流施設『おかしか』が誕生しました。施設整備に取り組まれた「みんなのふる里」の代表 安井岩夫さんにお話を聞きました。

「人口減少で後継者が不足し、商店街や地域そのものが衰退していくことに、多くの人に関心を持たない中で、久美浜一区では18年前から行政の応援、支援も得て、商店街でもある『まち並み』を保存し、空き家を活用する等、まちづくりに取り組んで来られたことを知り、私もぜひ、参加、協力したいと考えようになりました。」と今回の施設整備のきっかけを語られました。

安井さんは他にも地域活性化の取り組みとして、昨年5月に「糶（こうじ）」にこだわった民家カフェ、「糶マルシェ」を東本町に開業されました。さらに地域活性化には移住を希望する方のお試し、体験施設が必要と考え、整備を決意されたそうです。



糶マルシェ（東本町）

「建物はかつての『おかしか酒店』の空き家をお借りし、屋号もそこからいただいています。『おかしか』には起業者向けの体験ワーク、カフェコーナーの他、移住体験者の宿泊スペースも設けています。今後、施設のあり方、経営の進め方等は、みなさんのアドバイスをいただきながら、内容を充実させていけるように考えています。地元だけでなく行政の方にも、まちの活性化に向けて活用してもらいたいです。」と、熱い思いを語られました。

今後、建物内を仕上げ、運営に向けた調整を行い、正式にオープンする予定です。

「川上ふるさとレスキュー」がスタートしました！

—みんなを守る、みんなを守る—



※写真はカタログから引用した参考写真です

川上地区自治振興会では3月1日から「川上ふるさとレスキュー」の取り組みを始めました。

ふるさとレスキューは消防署から遠隔地にある中山間地において、災害時の要救助者や傷病者発生に備えるため、地元消防団員を中心とした自主防災組織、区役員など地域の人材が、救急・救助の対応能力を高め、安心安全な地域づくりをおこなうものです。

消防署から遠隔地にある川上地区は、京都府から支援を受けて、下記の防災資機材を配備しました。

- ・AED…畑消防車庫内に続き、新たに新庄消防車庫内に配備。
- ・バルーン型投光器一式…台車、発電機付き（ガソリン携行缶付属）
- ・テント…大型イーザーテント

※バルーン型投光器一式、テントは久美浜林業センターにて保管。

ふるさとレスキューに取り組むことで、住民の防災意識は一層高まっていくと思います。他地区の皆様も取り組まれてはいかがでしょうか。

災害等で使用することが無いのが一番ですが、防災訓練等で有効に活用して、災害に強い「川上地区」を地域の皆様と一緒に構築していきたいと思います。（川上地区自治振興会長）

地域おこし協力隊通信

地域おこし協力隊の吉田です。

活動している蒲井・旭地区では海岸線を活かした「シーカヤックツアー」を開催しています。

シットオンタイプのカヤックで初めての方でも短時間で乗りこなせます。



これがシットオンカヤックです。



←↑こんなカヤックで蒲井・旭エリアの海を漕ぎ進んで行くことができます。蒲井エリアは波が穏やかで漕ぎ易いです。旭エリアは断崖を海から見たり、洞門をカヤックでくぐったりして、山陰海岸ジオパークを満喫できます。

去年は京都市内から3回も来てくれた小学生もいました。今年もたくさんの方に来ていただけるよう頑張ります！

鉄道・路線バスダイヤ改正

公共交通の春のダイヤ改正が、鉄道は3月14日（土曜日）に、バスは4月1日（水曜日）に、それぞれ行われます。

＜久美浜町内に関わる主な改正点＞

1 豊岡発宮津行の最終列車の増発 2 丹海バス久美浜線等の時刻改正 3 市営バス佐濃南線の時刻修正
詳しくは、3月10日発行の、公共交通ガイドブックをご覧ください。

なお、EV乗合タクシーは、3月31日（火曜日）をもって、運行を終了します。